

柏尾の文化遺産

村上なつか・松岡聖也・大野浩輝

1. 大歳神社

建造物

本殿 一間社流造 檜皮葺

拝殿 桁行三間 梁間二間 入母屋造
棧瓦葺

大歳神社は柏尾区の大嶽山南の山裾に位置している（写真 1）。現在の本殿は檜皮葺の一間社流造で、覆屋の中にあり（写真 2）、拝殿は棧瓦葺の入母屋造である（写真 3・4）。境内には、このほかに神輿蔵や忠魂碑などがある（図 1）。

この大歳神社の由緒については諸説あり、福本区から移築されたという話や、神仏分離時、法性寺の神社が移築されたという話などが伝えられている。『神崎郡誌』によれば、江戸時代は福本の大歳神社の御旅所であったことがわかる。なお、柏尾区所有の江戸時代後期の絵地図にもこの神社は描かれている。

2016 年 8 月 23 日、大歳神社本殿・拝殿の実測（図 2・3）、写真撮影、石造物の調査を実施し、さらに同年 12 月 23 日にも補足調査をおこなった。

絵馬

12 月 23 日の補足調査時に、拝殿内部にある絵馬の題材や作者、年号などを記録した。なお、絵馬は南東隅から左廻り順に番号を付けている。

絵馬 1（写真 5）は「吉備大臣・呉大尉玄東対局図」、絵馬 2（写真 6）は「玄德躍馬跳檀溪図」で、詳細は後掲コラムを参照していただきたい。

絵馬 3（写真 7）「忠臣蔵図」は、人形浄瑠璃や歌舞伎の演目で有名な『仮名手本忠臣蔵』にみえる赤穂浪士の討入り事件を描いたもので、赤穂藩主の浅野内匠頭による吉良上野介への刃傷事件から、大石内蔵助率いる赤穂浪士 47 名の討入りまでが場面ごとに描か



写真 1 大歳神社全景



写真 2 大歳神社本殿



写真 3 大歳神社拝殿

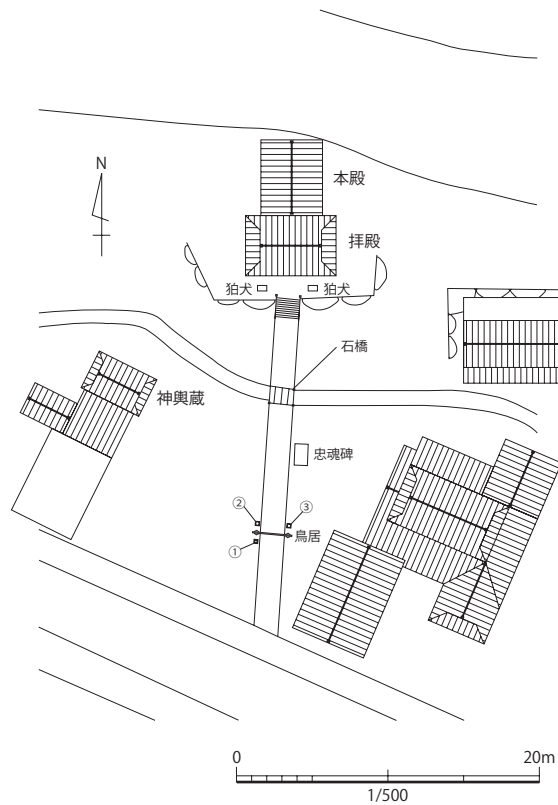


図1 大歳神社境内図 (S=1/500)

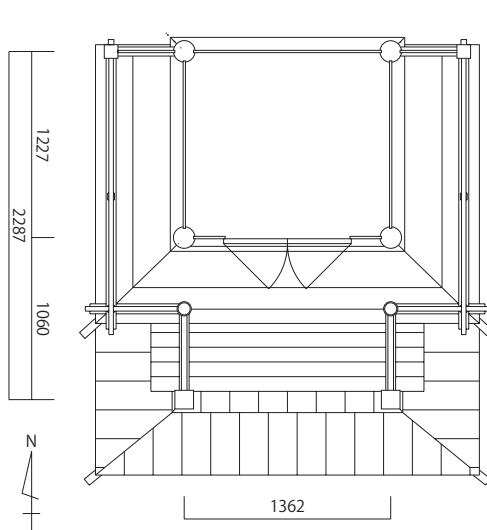


図2 大歳神社本殿実測図 (S=1/50)

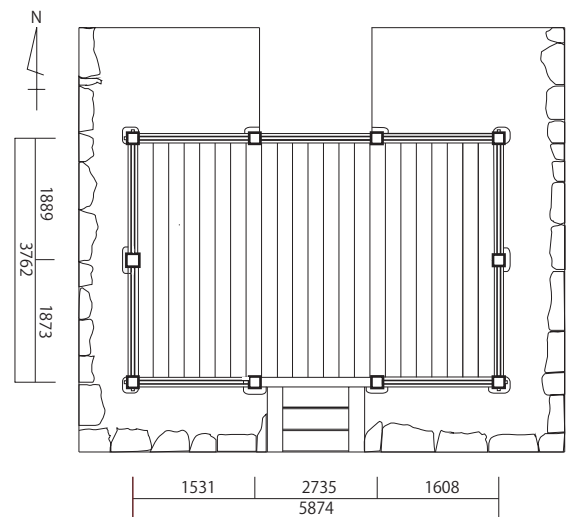


図3 大歳神社拝殿実測図 (S=1/100)



写真 4 大歳神社拝殿内部



写真 5 絵馬 1

(画題)「吉備大臣・呉大尉玄東対局図」
 (年代) 安政 7 年 (1860) □月上旬
 (作者) 不明
 (寄進者) 太田與左衛門
 (銘文) 奉納御宝前
 太田與左衛門
 安政七庚申歳□月上旬
 (備考) 拝殿南東隅 彩色



写真 6 絵馬 2

(画題)「玄徳躍馬跳檀溪図」
 (年代) 嘉永 7 年 (1854)
 (作者) 百斎義信
 (寄進者) 不明
 (銘文) 嘉永七甲寅年
 百斎義信 (印)
 奉納御宝前
 (備考) 拝殿北東隅 彩色

れている。

絵馬 4 (写真 8)「草摺曳之図」には、工藤祐経に父を殺された兄弟の仇討ちを描いた『曾我物語』の一場面が描かれている。曾我兄弟は、建久 4 年 (1193)、源頼朝が開催した富士の巻狩において、御家人として参加していた工藤祐経を討ち取った。絵馬に描かれているのは、弟の曾我五郎時致と大力で知られた朝比奈三郎義秀の力比べの場面である。(村上)

石造物

大歳神社には鳥居、百度石、石灯籠 2 基、忠魂碑、石橋、狛犬 2 基、石段、拝殿石階の石造物が存在する。石灯籠にはいずれも文化元年 (1817) の銘が確認できる。石橋は境内中央に流れる水路にかかる。石橋の南東側には忠魂碑がある。これは太平洋戦争後に建立されたものである。

拝殿の前にある石段には寛政 6 年 (1794) の銘があり、大歳神社内の石造物の中で最も古い。拝殿正面には一對の狛犬があり、施主は石橋と同一人物である。

大歳神社の石造物の一部は江戸時代のものであるが、多くは昭和 2 年 (1927) や昭和 6 年 (1931) のもので、この時期、神社の整備が集中的におこなわれたと推定される。(松岡)

2. 法性寺

ここでは柏尾区の法性寺に伝わる有形無形文化遺産についてまとめる。まず法性寺について簡単に概要を述べる。法性寺は高野山真言宗の寺院で、山号は愛宕山、創建は享保 5 年 (1721) 3 月 24 日である。本尊は勝軍地藏菩薩愛宕大権現で、檀家はおらず、神仏習合の名残を色濃く残す寺院である。村の安全・家の安泰を祈願し、周辺住民は行事の際には法性寺に集まるという。現在、2 月 24 日に春会式、8 月 24 日に夏会式がおこなわれている。春会式では村人たちの無病息災を願い護摩焚きがおこなわれ、夏会式では地藏盆や盆踊りが開催される。

この地域には「さいのとう」とよばれる伝承行事がある。子供たちが 1 月 14 日の夕方から各戸をまわり、「さいのとう」の掛け声をおこなった後に、法性寺でお祓いをする。

かつてはこれに類似した行事が全国的におこなわれていたようであるが、現在では北播磨、若狭方面でよくみられるものである。

次に法性寺の文化財であるが、法性寺の本堂(写真9・10)は祈祷札から宝暦4年(1754)の建立とわかる。現存建物はその後改築されたものである。この本堂には不動明王像・弘法大師像・観音菩薩像・大日如来像が安置されている。

本堂横には子安地蔵(写真11)があり、8月の地蔵盆では地蔵菩薩像とともに祀られている。また、境内南東には二つの祠が南北に並び(写真12)、弘法大師・地蔵菩薩像、秋葉三尺坊大権現・役行者像が安置されている。北側の祠には「弘法大師・地蔵菩薩」の額が掲げられている。祠は昭和8年(1933)4月8日に築造され、後に屋根など破損の激しい箇所が修繕された。弘法大師像の右側に「安政七申三月廿一日」と刻記されていることから、1860年に製作されたものと思われる。

南の祠には秋葉三尺坊大権現・毘沙門尊天・行者神變大菩薩が祀られていることを伝える額が掲げられている。また役行者の台の裏側に「飾磨郡菅野村苅野村 仏師 梶浦信夫」、「大正二年四月」と世話人の名前と制作年が記されている。前身建物は昭和4年(1929)7月15日に建設されたが、平成18年(2006)5月に取り壊され、平成19年(2007)3月に再建された。

山門を入って左手すぐに手水鉢(写真13)がある。これは横約150cm、縦約60cmの細長い形の石製である。下部に「文化十酉年三月 奉寄進 世話人福本 松壽」(写真14)と刻記されており、江戸時代後期に福本村から寄進されたと考えられる。

境内裏の階段を上がると二手に分かれており、それぞれに西国三十三ヶ所観音菩薩像が安置されている。向かって左の道から一番・二番となっており、一周まわると三十三番の菩薩像を巡ることになる(図6参照)。これは西国の寺院を巡礼することができない人々のために大正前期に世話人たちが人々に依頼し設置されたものという。施主人の大半が神戸町内住民であるが、なかには姫路市や印南郡的形(現姫路市の形町)、大阪のものもある。



写真7 絵馬3

(画題)「忠臣蔵図」
(年代)文久元年(1861)6月□日
(作者)不明
(寄進者)南太田氏
(銘文)南太田氏
奉□
文久元年辛酉(カ)六月□日



写真8 絵馬4

(画題)「草摺曳之図」
(年代)安政3年(1856)重陽
(作者)百斎義信
(寄進者)太田與左衛門
(銘文)安政三丙辰歳重陽吉辰
願主太田與左衛門
奉懸御広前
百斎義信写
(備考)拝殿南西隅 彩色



写真9 法性寺遠景



鳥居
〔東柱背面(北)〕
永代電燈資金百五拾圓
〔西柱背面〕
昭和六年十月建之
〔東柱正面〕
奉
〔西柱正面〕
献



石灯籠(図1・③)
〔正面(南)〕
常夜燈
〔左側面〕
氏子中
〔右側面〕
丁文化十四丑九月吉日
〔背面〕
清右衛門
役人
与惣左衛門

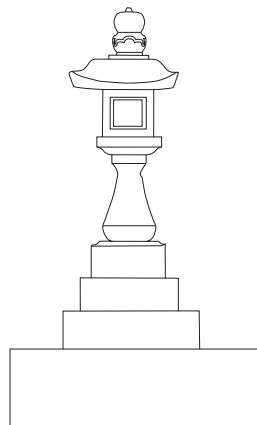


忠魂碑
〔正面(西)〕 忠魂碑
〔左側面〕 昭和廿八年九月
柏尾区建之
〔背面〕 ノモンハシ戦
大東亜戦

小井竹井井竹井太田稲中益
島上内上内内田垣野田資
義明義巖安豊一巧次
雄夫二二三



百度石(図1・①)
〔正面(南)〕
百度石
〔西側面〕
昭和六年十月黒田初太郎



石灯籠(図1・②)
〔正面(南)〕 常夜燈
〔右側面〕 氏子中
〔左側面〕 丁文化十四丑九月吉日
〔背面〕 清右衛門
役人
与惣左衛門



(S=1/40)

図4 大歳神社境内の石造物①



石橋
〔東側面〕
昭和二年三月建之



石橋石柱（西）
〔正面（南側）〕
施主当村
黒田寅蔵
〔西側面〕
昭和二年
三月再築



石橋石柱（東）
〔正面（南）〕
寛政六年十一月
氏子中
〔西側面〕
庄屋新吾
年寄安三郎

狛犬（西）
〔基壇正面（南）〕
大正拾年拾貳月建之
〔東側面〕
納



狛犬（東）
〔基壇正面（南）〕
当村
黒田寅蔵
〔西側面〕
奉



拝殿石階（西側）
〔西側面〕
昭和二年三月建之



拝殿石階（東側）
〔東側面〕
施主当村
黒田寅蔵

図5 大歳神社境内の石造物②



写真 10 法性寺本堂



写真 11 子安地蔵



写真 12 境内右奥に並ぶ祠



写真 13 手水鉢

さらに裏山を登ると愛宕大権現（写真 15）に辿り着く。ここには勝軍地蔵が安置されている。この勝軍地蔵は室町時代の作とされ、秘仏とされているため 24 年に一度しか公開されない。近年では平成 19 年（2007）に開帳され、法会がおこなわれた。愛宕大権現の前には灯籠が一对配置されており、東には鐘楼（写真 16）がある。鐘の銘文から、これは元禄 7 年（1694）に鑄造され、昭和 18 年（1943）に供出され、昭和 25 年（1950）に再鑄造されたことがわかる。

以下、実際に西国三十三ヶ所観音菩薩像を調査結果を示す。（大野）

【参考文献】

神河町教育委員会編 『神河町の寺社建築 - 旧神崎町域 -』 2006 年

兵庫県神崎郡教育会 『神崎郡誌』 神崎郡教育会 1942 年

わがふるさと柏尾編集委員会 『わがふるさと 柏尾 愛宕山法性寺』 神河町柏尾区 2007 年

「文化遺産オンライン」 < <http://bunka.nii.ac.jp/> > (2017/1/31 最終閲覧)

「文化デジタルライブラリー」 < <http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/> > (2017/1/31 最終閲覧)

「the 能ドットコム」 < <http://www.the-noh.com/jp/> > (2017/1/31 最終閲覧)

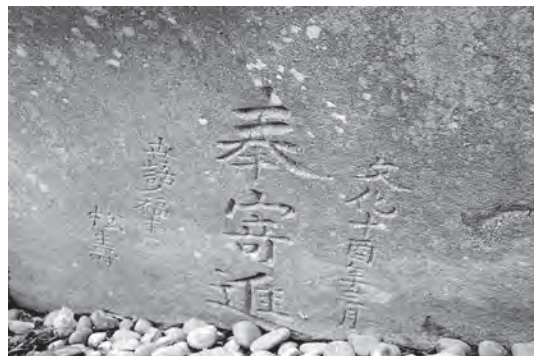


写真 14 手水鉢銘文

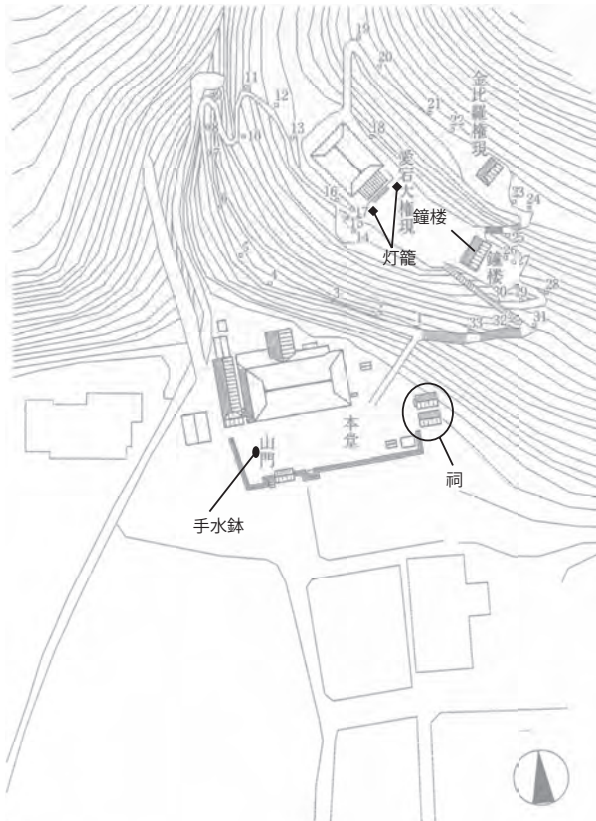


図6 法性寺境内図（神河町教委 2006 より一部改変）



写真15 愛宕大権現



写真16 鐘楼



灯笼（西）
〔正面（南）〕
享保拾五庚戌年二月吉日



灯笼（東）
〔正面（南）〕
屋吹五右衛門英勝
〔右側面〕
享保十一丙午年六月十四日
奉寄 施主

図7 法性寺境内の石造物



第一番
施主
栗賀町
松本儀一
同
静



第七番
施主
東川辺
多田太市



第十三番
施主
印南郡の形
山名寅吉
溝口庄治



第二番
施主
延中
田中□□



第八番
施主
中□□
松本□太郎



第十四番
施主
寺前
井上又蔵
荒木寅次



第三番
施主
中村
中塚甚平
中塚安太郎



第九番
施主
姫路市
坂元茂



第十五番
施主
山田
大渡鶴吉



第四番
施主
新野
今井富太郎



第十番
施主
中村
難國信一



第十六番
施主
長谷
大□□



第五番
施主
阿成
上村磯右エ門



第十一番
施主
寺前
神崎義良



第十七番
施主
寺前
光島龜太郎



第六番
施主
寺前
藤田榮太郎



第十二番
施主
東柏尾
岸本鉄太郎
福本
山本弥市



第十八番
施主
栗賀町
竹内□郎

図8 法性寺境内の西国三十三ヵ所観音菩薩像① (図6の番号に対応)

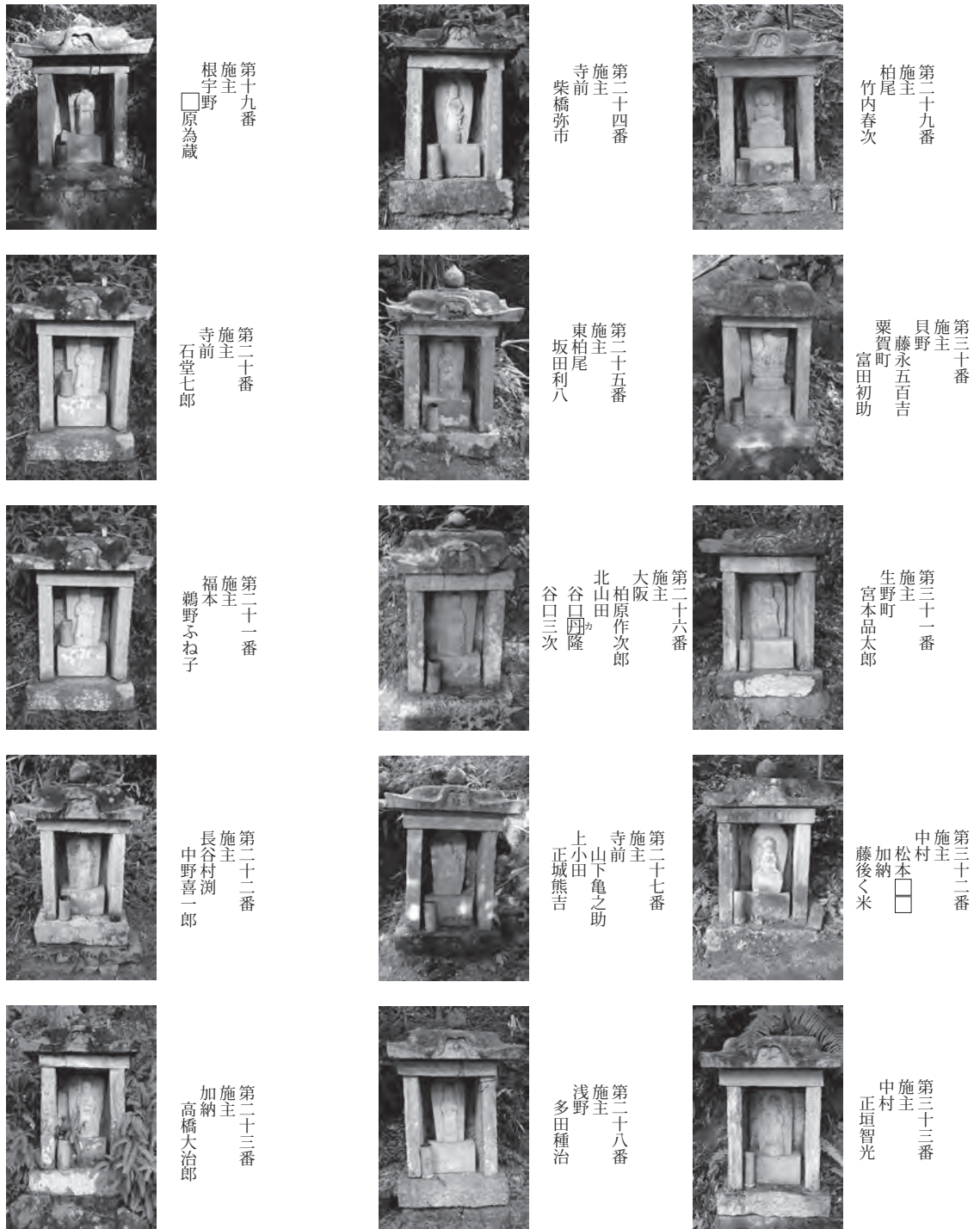


図9 法性寺境内の西国三十三カ所観音菩薩像②（図6の番号に対応）